

洞爺湖陥没調査報告

室蘭測候所

昭和七年五月十九日午後五時頃洞爺村役場より洞爺湖一部陥落せるを以て至急調査され度旨の電話ありしを以て翌二十日出張調査せり概要左の如し。

発見の動機 五月十九日午前中陥落個所と覺へし部分の水面に夥しき氣泡の浮遊し居るを見たるに午後に至り木及び胡桃様のもの多數浮び出で且水面著しく濁りしたため船にて現場を調査の結果水深約二米位より急に深くなり垂直にずり下りたるを認めしと云ふ。

湖底陥没の場所 湖岸道路に沿ひ上野齋氏宅と漁業組合の前面にして湖岸波打際より約四十米（水深一米八乃至二米）の湖中なり。

陥没の状態 調査せしところに依れば略半月形にして東西の方向に約百米南北の方向は南方は湖の沖合に位するを以て水深の關係上測定不可能なるも大體半月形の形狀と思料せらる。陥没せし附近は水深一米八乃至二米なるため陥没の境界は明瞭に覗き得べく小職調査當時（二十日午前八時より十時まで）は前日風力強かりしたため風浪の影響により幾分原形を破壊されしが如きも尙水面より認識し得る範圍は七十度以上の傾斜をなし居れり、深度は氣泡の浮び出づる部分が一番深く測深の結果十三米を得たり、故

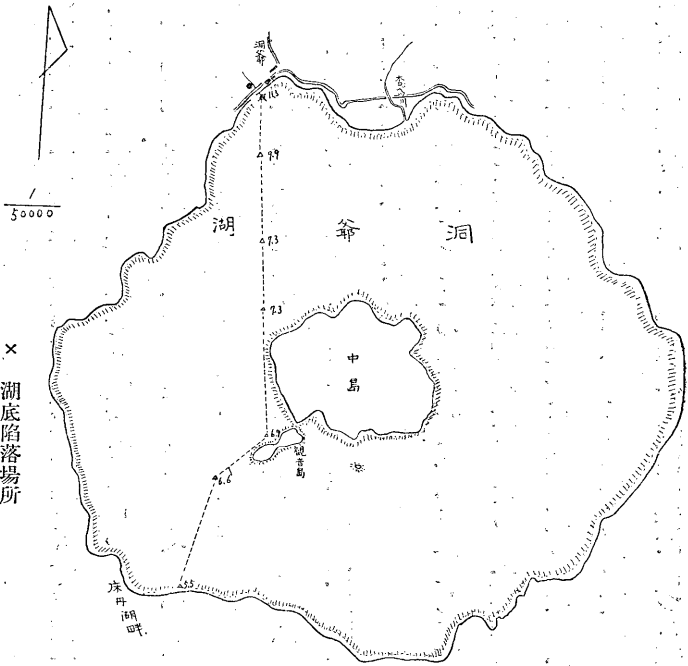
に今回の陥没は最深十一米前後のものとなるべし。

陥没前後に於ける震動其他現象の有

無 湖底の變動に伴ひ地震の有無を調査せしも人身感覺のものはなく唯附近道路(湖岸より約五・六十米北に位し陥没の個所よりは大体北西北西に當る)に徑約〇米二深さ二米五位の穴を生じたるも小職現場へ出張せし時は附近住民によりて埋められたるを以て詳細なる調査は不可能なりき。

湖底沈積物の浮遊状態及其の種類 陷

没により湖底に沈積せしものにして浮き上りたるものは非常に腐朽せる樹木及原形を明らかに識別し得べき胡桃の實トチ



△ ● × 湖底陥没場所
 数字は水温

(昭和七年五月二十一日)
 自十二時觀測
 至十三時觀測

の實、ドングリ(黒色を呈す)等にして樹木は長さ一米位より十三米位のもの數本を數へ直徑〇米二及至三位のもの多數にして當時目撃者の談によれば樹木は殆ど垂直に浮き上りたりと云ふ。

表面水温の異常變化 今回の調査に於て湖水表面の水温分布状態を横斷觀測に依て見るに陥没個所附近の水温が異常に高温を呈し居りし事なり、即ち床丹湖畔温泉場にて五度五、觀音島附近六度九、向洞爺より約三籽を距りたる點七度三同約一籽を距りたる點九度九、陥没せし附近十一度三にして湖畔温泉場に比し、二倍の高温を示せるは異常現象なるを以つて垂流水温其の他を再調査の上更に報告する所あるべし。

登別温泉間歇泉噴出報告

(室蘭測候所報告)

場所 幌別郡登別温泉第一瀧本館裏中庭 噴出の經過 四月中旬溪流の崖石垣積み工事中夜半俄然噴出す、現在は噴出により土地の崩潰に伴ふ建物の危険を防ぐ目的を以て、直徑一寸五分位の鐵管を埋めあり。

噴出の状態並に週期 噴出直前五分位より鐵管口に盛に泡粒たち、管口全面を被ふた時シューと勢能く噴出し高さ十米、或は九米邊にて粉霧状態となり四散す。二秒乃至三秒の周期にしてシューシューと息をつき約八分間斷なく噴出す、周期は四十分乃至一時間。

管中の温度 噴出直前は八十九度の温度なりしも噴出直後は七十度に低下せり。